

初めての植物観察通信・秋期編 H.25年9月21日開催

先日はお疲れ様でした。ひょっとしたら暑いかなと思ったのですが、すぐに日が陰ってちょうどよい観察向きの日になりましたね。秋と言うには、少々気が早かったのですが秋の花の蕾を見ていただけなので、10月中頃のお楽しみということでご了承下さい。

さて、当日見られた植物につきまして備忘録的にメモを作りましたのでお送りします。私の不勉強からわかりにくかったり、また、間違っていたりすることも時々(しばしばかも?)あるかと思いますが、そういったものは、この通信で訂正補足させていただきます。

まず、本日最初に観察したのは、キツネノマゴ科のオギノツメでした。これは、田んぼの用水路の脇などの湿地に生える植物で、最近では少なくなってきました。紫色の合弁花と対生に着葉が特徴です。その後、栽培中のイヌハギなども見ていただきました。この植物は、絶滅危惧種で吉野川の河原などに生えますが、とても少ない物です。花の色は、白〜クリーム色ですがあまり目立ちません。

次にフヨウを見ました。次に見たムクゲも同じアオイ科の植物で、ハイビスカスのなかまです。この仲間は、雄蕊の花糸が互にくっつきあって筒状になって雌蕊を取り囲んでいます。このような雄蕊を単体雄蕊(この場合雄蕊筒)をつくっているのがポイントでした。その後ハギを見ました。正直なところ、私はハギの仲間がよくわかりません。皆さんも観察されて、この仲間は難しいということがおわかりいただけたかと思います。

その後、イヌシデの果穂を観察しました。イヌシデは、カバノキ科の落葉樹で、徳島県ではやや山深い中山間地に主に生えています。果穂は、ゆるんだ松ぼっくりのようでしたが、果苞と呼ばれる物の付け根に一つ一つ果実がついていて、風で散布されるようになっています。くさい臭いのするヘクソカズラ(アカネ科)や、生でもおいしいムカゴをつけたヤマノイモも観察しました。葉の互生、対生が大切だという話は覚えていますか?



オギノツメ



イヌハギ



フヨウ



ケハギ?



イヌシデ



ヘクソカズラ



ヤマノイモのムカゴ



ウリクサ

山にはいると、ユリ科のセトウチホトトギスの蕾が見られました。この種も絶滅危惧種で近畿・中国地方と四国に見られます。ハシカグサは、本当に目立たない草ですので、あえて採り上げてみました。これもヘクソカズラと同じアカネ科です。ホウチャクソウの青い実を見て、山を下りました。帰り道で見たイタドリは、夕禾科の植物で、雄雌が別株（雌雄異株）です。カスケードでは、コゴメガヤツリを見ました。カヤツリグサ科の植物は、多くは茎が三角形です。この点がイネ科と見分ける簡単なポイントです。同じところで、ミカンソウ科のコミカンソウを見ましたね。一見すると複葉をつけているようですが、単葉の持ち主です。小さな葉の付け根に果実をつけているので、それがわかります。こうして噴水に戻り観察会終了です。次回は、1月19日の新年編です。皆様のご参加をお待ちしております。



セトウチホトトギス



ハシカグサ



ホウチャクソウ



チチミザサ



イタドリ



コゴメガヤツリ



コミカンソウ



オニバス

質問コーナー

行事の間に頂いた質問にお答えします。ご不明の点は、メールなどでもお問い合わせください。

Qフヨウの萼の付け根にある物は何ですか？

フヨウやムクゲの額の付け値に変な尖った物が着いていますが、これは何でしょうか？

A: 済みません。総苞だろうとお答えしてしまいましたが、正しくは副萼片でした。副萼(epicalyx)というのは、萼の外にある萼のような形の物で、萼と同様に開花前の花を保護する役割をしています。総苞との違いですが、萼の托葉起源との説明もあり、通常の葉の変形物である苞とはこの点でも異なるのかもしれませんが。



Qホウチャクソウは、何科ですか？

A. イヌサフラン科です。以前は、ユリ科とされていましたが、この科は、DNAを用いた系統解析の結果、バラバラに細分されました。私もなかなか覚えられないで困っているのですが、何とか覚えたいものです。

お問い合わせは以下まで。

〒770-8070 徳島県徳島市八万町徳島県立博物館 Tel 088-668-3636 F A X 088-668-7197

茨木靖 (いばらぎやすし) Ibaragi-yasushi-1@mt.tokushima-ec.ed.jp

徳島県立博物館では、学芸員は交代勤務ですので年末年始以外は、誰かが居ります。植物については私が不在の場合、小川専門学芸員がいれば、ご質問にお答えできます。お気軽に博物館にご連絡ください。メールも大歓迎です。